

CKJSだより

第55号

校長 松平 昭二

shoji_matsudaira@hotmail.co.jp

加点法と減点法

ある国際的な調査によると、日本の子どもたちは他の国々の子どもたちと比べて、自分を否定的にとらえる傾向があるそうです。自分を肯定的にとらえられてこそ、何ごとにも挑戦する気持ちが湧いてくるものです。

私たちが、子どもに対して「もっとこうあってほしい」とか「あれもできてほしい」と思うのは、子どもに期待をしているからです。しかし、過度の期待感から、つい子どもの欠点だけに目が行ってしまい、「あれもできない」「これもできない」というような減点法で見えてしまうことがあります。

子どもが、「期待されているから言われているのだ」と肯定的に受け止めてくれるといいのですが、「自分はだめな人間」と否定的な自己理解をする場合もあります。そうすると、自分に自信をなくし、新しい課題に挑戦する気力が湧かなくなり、無気力な言動が見られるようになります。



心理学者の波多野誼余氏は、その著書の中で「無気力は学習される」と述べています。つまり、人間は初めから無気力ではなく、否定的に見られているうちに『無気力』を身に付けていくというのです。

子どもは、受容され肯定的に認められる温かいまなざしの中で、自分に対する自信を深めます。そして、積極的に周りの人たちや事柄にかかわっていけるようになります。他と比較して、字が乱雑だからマイナス10点、忘れ物が多いからマイナス15点、手伝いをしないからマイナス20点と引き算で見えていくと、どんどん0点に近づいていきます。

ところが、その子のいいところを加点法で見えていくとどうでしょうか。友だちに優しくできたから20点、人の嫌がる仕事を率先してしたから30点という具合に、点数がどんどん増えていきます。

今、学校に求められているのは、一人一人の子どもをしっかりと見ていく教師です。医者は患者の悪いところを見つけて治療することが求められます。それに対して、私たち大人や教師は子どもたちの良いところを見つけて伸ばしてあげる、ここに重点を置くべきだと考えます。私自身も「教師の心構え」として、改めて「加点法」の言葉の意味の重さをかみしめたいと思います。

※ 現在、後期の学校当番表を作成しています。3月までに帰国される予定の方は、その旨至急事務所までご連絡ください。

※ 本日、家庭環境調査書を配布しました。ご記入の上、**8/26(土)まで**にご提出ください。ただし、**6月以降に入学された方は提出の必要ありません。**